



平成 19 年 5 月 25 日

各 位

会社名 株式会社ディーワンダーランド
代表者名 代表取締役社長 久野 哲彦
JASDAQ・コード 9611
問い合わせ先
役職・氏名 取締役管理部長 脇村 正紀
電話 03-5421-6111

平成 19 年 9 月期の中間業績予想ならびに通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 11 月 28 日および平成 19 年 2 月 20 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。当該業績予想の修正に関しましては当社監査法人において慎重に検討を重ねて戴き、今般ご了承を賜りましたことから、ご報告が本日に至ったものです。

記

1. 平成 19 年 9 月期連結中間期業績予想の修正

(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

(1) 連結中間期

(金額の単位: 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	5,111	456	19
今回修正予想 (B)	5,600	748	232
増減額 (B－A)	489	292	213
増減率 (%)	9.5	64.0	—

(2) 個別中間期

(金額の単位: 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	258	△60	△60
今回修正予想 (B)	23	△51	△83
増減額 (B－A)	235	9	△23
増減率 (%)	△91.0	—	—

2. 平成 19 年 9 月期連結及び個別通期業績予想の修正

(平成 18 年 10 月 1 日 ～平成 19 年 9 月 30 日)

(1) 連結通期業績予想

(金額の単位:百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	10,103	815	113
今回修正予想 (B)	10,771	1,183	343
増減額(B-A)	668	368	230
増減率(%)	6.6	45.1	—

(2) 個別通期業績予想

(金額の単位:百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	376	△196	△235
今回発表予想 (B)	365	△159	△161
増減額(B-A)	△11	37	74
増減率(%)	△2.9	—	—

3. 中間業績ならびに通期業績の修正理由

(連結)

当社グループの中間期業績につきましては、子会社の株式会社大黒屋に関しまして競合他社及び新規参入業者の増加が見られ、買取り及び販売価格の競合が激しくなっているものの、既存店の売上については堅調に推移しております。また、大黒屋ブランド浸透に向けての全国出店計画に基づき、昨年 10 月に開設した大宮店も好調で、売上および利益面に大いに寄与しており、売上高 5,600 百万円、経常利益 748 百万円、当期純利益 232 百万円を計上し、平成 19 年 2 月 20 日公表の業績予想を上方修正いたします。

通期業績見通しにつきましては、株式会社大黒屋の既存店売上については下期に入っても引き続き堅調に推移しており、従来水準を維持出来る見込みであります。上期に開設した大宮店、名古屋店(3 月開店)も業績伸長に寄与しており、下期には梅田店開設を計画しております。中間業績の上方修正も踏まえ、当連結会計年度の連結売上高 10,771 百万円、経常利益 1,183 百万円、当期純利益 343 百万円に修正いたします。

(個別)

当社の中間期業績につきましては、受注しております大型システム開発案件の大幅な遅れによる開発コストの上昇に伴う受注損失引当金の追加計上、名古屋の不動産売却に伴う税金調整、ニフティ株式会社との和解に向けての付随処理などの発生により、期初予想を下回り売上高は大幅に落ち込み 23 百万円、経常損失 51 百万円、当期純損失 83 百万円を計上する見込となります。

通期業績見通しにつきましては、システム開発事業に関しまして大型システム開発案件が大幅に遅れておりますが、下期には完成する見込みであります。また、新規のシステム受託開発、子会社大黒屋の買取り支援システム開発などにより売上の確保を目指しますが、大型システム開発案件の遅れの影響により、これら事業の立ち上がりも遅延しており、中間期業績の下方修正も踏まえ、売上高 365 百万円、経常損失 159 百万円、当期純損失 161 百万円に修正いたします。

(注) 当該予想は、本資料の作成時点で入手可能な資料に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

以上